

民間市場の開拓も狙う

長野再資源化研究所(佐久市)

家庭から出る廃ガラス瓶で製造

信州リサイクル製品認定

「NEXTONE-α」

ネクストワン-アルファ



家庭から出る廃ガラス瓶を主原料としてつくる「NEXTONE-α」

このほど「信州リサイクル製品」として県の認定を受けたガラス発泡材『NEXTONE-α』（ネクストワン-アルファ）。家庭から排出される廃ガラス瓶を主原料とするリサイクル製品で、水質浄化材などに使われる。認定を受け、製造・販売元の(株)長野再資源化研究所(志摩一雄社長、佐久市)では、今後、公共工事での採用を目指し、県をはじめとする発注機関に積極的に提案していく考えだ。また製品の多用途性を生かしながら、民間市場での販路拡大にもチャレンジする。

水質浄化材

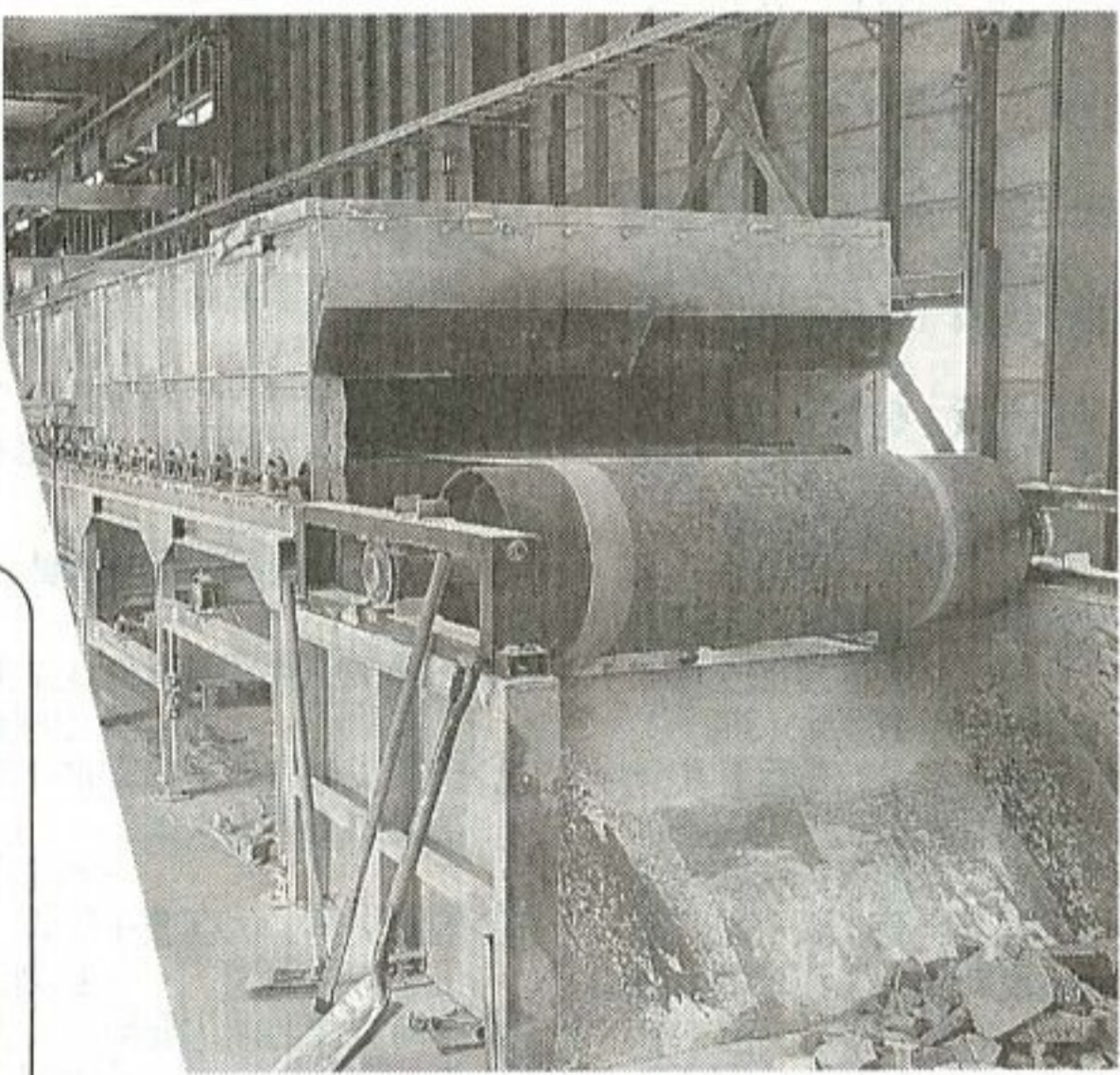
公共工事での採用めざす

信州リサイクル製品を浄化する仕組み。同社は、県内で発生した廃棄物など(循環資源)を再利用して製造したリサイクル製品を県が審査し、認定するもの。県は認定した製品について、公共事業などで率先して活用していく方針だ。ネクストワン-アルファは、微生物のはたらきを促進させ、水質

同社は、山口県下関市に本社を置く(株)日本再資源化研究所のグループ企業。志摩氏が代表を務め、管工事などを手掛ける(株)不動(佐久市)が51%出資して設立した。ネクストワン-アルファの製造・販売拠点は、同社を含め全国に11拠点あり、各地域に安定した品質

の製品を供給できるのが強みだ。これまでに、山口県下関市にある農業集落排水処理の水質浄化で採用されたほか、中国・四国地方を中心に、水質浄化試験で多くの施工例がある。また保水性が高い性質から、水質浄化材以外でも、高速道路の工事(道路公団発注)でのり面の軽量盛土として使用された実績もある。

製造プラント。900~1000℃で焼成する



志摩社長は「多用途性も(製品の)大きな魅力」と強調する。住宅の周りに敷き詰めることで防犯・防草効果が期待できる『防犯ジャリ』や、「観葉植物の底石」など、さまざまな利用方法(「商標」があるという。志摩社長は、こうしたバリエーション豊富な商品ツールとして、民間市場の開拓にも力を注ぐ考え。当面、県内と近隣エリアをターゲット

に販路拡大を狙う戦略だ。防犯ジャリについては、4月から西日本を中心に店舗展開しているホームセンター「ナフコ」に出荷することが決まっている。敷き詰められた路面を歩くと約72デシベルの音が発生するため「不審者が侵入しづらくなる」ほか、雑草の発育を妨げる効果もある。店頭での販売価格は1袋(24ℓ入り)1200~1300円。グループ全体では、すでに複数のホームセンターに対し製品を供給している。観葉植物の底石に使用する商品「ネクストガーデン」は、今のところ同社による出荷はないものの、「東急ハンズ」などで販売されているという。